

第 39 回新潟糖尿病談話会

日 時 平成 22 年 2 月 20 日 (土)
午後 1 時 30 分～午後 6 時
会 場 朱鷺メッセ
3 階 中会議室 302

I. 一 般 演 題

1 入院患者に対する単回使用自動ランセットと採血用穿刺器具の検討

藤田 淳子・有田 千晶・鈴木 浩史*
篠崎 洋*・佐藤さつき*・宗田 聡*
新潟市民病院看護部
同 診療部*

SMBG は自己管理の意欲を駆り立て、血糖コントロールの改善に役立つ。より使いやすい血糖測定器具の紹介は、SMBG のコンプライアンスを改善させ自己管理意欲を支援することにつながると考える。当院入院患者にジェントレット®とポケットランセットを使用してもらい、簡便性・安全性・痛み・手ごろ感(大きさ)で比較した結果を報告する。

対象は当院内内分泌代謝科に入院した教育入院患者 24 名 (M17, F7)。平均年齢 55.3 歳、平均 HbA1c 9.6 % であった。全ての比較項目において製品間には差はなかった。製品選択においては、男性はポケットランセット、女性はジェントレット®を選ぶ傾向を認めた。男性では簡便性が重要視され、女性では安定性と初回指導に用いた製品を選ぶ傾向にあった。自己管理意欲を高めるため、性差を考慮した上、合った製品を選択できるように支援する必要があると考える。

2 One Touch を用いた SMBG による指先と手掌の使用感に関する比較検討

伊藤 崇子*・**・鴨井 久司*
皆川 真一*・**・木村 慶太*
小林あかね*・**

長岡赤十字病院糖尿病内分泌代謝
センター*
新潟大学医学部第一内科内分泌・
代謝部門**

血糖自己測定 self-monitoring of blood glucose (以下 SMBG) を行っている糖尿病患者において、alternative-site testing (以下 AST) はより良い血糖コントロールを得るのに有用であると考えられる。今回我々は、One Touch を用い指先と手掌における SMBG の使用感についてアンケートによるクロスオーバー比較試験を行った。

対象は 1 日 4 回のインスリン注射を行っており、これまで One Touch を使用した経験がなく、SMBG を 1 日 3 回以上指先で過去 3 カ月以上行っている糖尿病患者である。1 群は指先で 1 週間→手掌で 1 週間→再度指先で 1 週間 SMBG を行い、2 群は手掌で 1 週間→次いで指先で 1 週間→再度手掌で 1 週間 SMBG を行った。11 項目からなるアンケートを AST 開始前、1 週間後、2 週間後の計 3 回行い使用感を比較した。質問は -100 から +100 までのビジュアルアナログスケールで評価した。

2 群間では年齢、BMI、糖尿病罹病期間、HbA1c は有意差を認めなかった。調査対象となった患者の大半は、調査終了後も AST として手掌採血を継続することを希望していた。しかし、患者は測定針の刺入や試験紙への血液付着が難しいため、手掌測定機器の使用方法には十分に満足していなかった。AST を普及するには手掌部位でのこれらの手技上の問題を解決することが必要であると考えられた。